MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．８．４　発行元
第 503 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

E・S・ガードナー「ベスト表」(再掲)

海外ミステリ作家の『ベスト表』についても再び取り上げていくことにする。最初はＥ・Ｓ・ガードナー。Ａ・Ａ・フェア名義のラム＆クール・シリーズも含めて。『法廷ミステリ』の偉大な先駆者である。

弁護士ペリイ・メイスン・シリーズ

Ｅ・Ｓ・カードナーの『ベスト表』は第２号で取り上げた。今回、それを再掲し、下の方に数作を付け加えた。順位に変動はない。１９３０年代から１９７０年代にかけての作品であり、私は１９８０年代にはほとんど全作品を読み終えているので、今になって順位を変更しようという気持ちはない。

ペリイ・メイスンシリーズの第一作『ビロードの爪』が１９３３年。最後の『延期された殺人』が１９７３年というミステリ史の中の位置にある。『法廷ミステリ』というジャンルを確立し、弁護士、検事、裁判官などが繰り広げる裁判を中心にした場面展開が読者を大いに惹きつけてくれた。

テンポが速くて読みやすく、読者はどんどんストーリーに巻き込まれていく。メイスンの機転の利いた行動力が素晴らしい。

『夢遊病者の姪』　１９３６年の作。ペリイ・メイスン・シリーズの第８作目に当たる。初期の頃の代表作。私の手元にあるのは１９７６年のハヤカワ・ミステリ文庫版。宇野利泰の訳である。

事務所で弁護士のペリイ・メイスンと秘書のデラ・ストリートが待っているとエドナ・ハンマーという若い女性がやってくる。伯父のことで相談があるという。伯父のピーター・ケントは事業主なのだが、一年ほど前から夢遊病の症状が出ていた。発作が起きた時、台所から肉切りナイフを持ち出したので、妻のドリスは寝室に逃げ、警察に連絡したので、事件になってしまった。そのため、ドリスは一度離婚訴訟を立ち上げたのだが、ピーターが別の看護師と仲良くなったために、夫を禁治産者に認定してもらう訴訟に切り替えようとしていた。姪のエドナからの依頼で、メイスンがピーターに会ってみると奇妙な行動が目に付いた。正常であることを強調する場面なはずなのに、わざと異常な行動を取っているように感じられるのだ。さて、この後の展開は…。

『ぬれ手で粟』　１９６４年の作。Ａ・Ａ・フェア名義の『パーサ・クール＆ドナルド・ラム・シリーズ』の第２５作に当たる。比較的後期の作品だが、面白い。私の手元にあるのは１９６４年のハヤカワ・ポケットミステリ８５１番。田中小実昌の訳である。

私立探偵事務所に顔を出したドナルドを待っていたのはホーマー・ブレキンリッジと名乗る保険会社の社長。最近は保険金詐欺事件に手を焼いているという。依頼されたのは自動車事故を起こしたフォーリイ・チェスターの怪我の実態を調べること。本人は追突されて頸椎捻挫の症状が出ているという。それが正しいのか仮病なのかを確かめる仕事。秘密裏に観光牧場に無料招待し、乗馬やプールでの水泳に誘えば、油断して運動を始めるかもしれない。その実際をドナルドが８㎜映画に記録し、裁判官、陪審員に提示すれば…。でも目論見通りに進まないのが…。

《E・S・ガードナー・ベスト表》

１．義眼殺人事件
２．夢遊病者の姪
３．どもりの主教
４．奇妙な花嫁
５．幸運な足の娘
６．これは殺しだ
７．管理人の飼猫
８．すねた娘
９．片眼の証人
１０．びっこのカナリア
１１．ビロードの爪
１２．ぬれ手で粟（Ａ）
１３．怪しい花嫁
１４．美しい乞食
１５．馬鹿者は金曜日に死ぬ（Ａ）
１６．吠える犬
１７．待ち伏せていた狼
１８．脅迫された継娘
１９．屠所の羊（Ａ）
２０．放浪処女事件
２１．ためらう女
２２．カウント９（Ａ）
２３．落ちつかぬ赤毛
２４．コウモリは夕方に飛ぶ（Ａ）
２５．気ままな女
２６．大当たりを当てろ（Ａ）
２７．レスター・リースの新冒険（短）
２８．スリップに気をつけて（Ａ）
２９．孤独な女相続人
３０．ラム君奮闘す（Ａ）
３１．おめかけはやめられない（Ａ）
３２．危険な未亡人
３３．黄金の煉瓦（Ａ）
３４．光る指先
３５．梟はまばたきしない（Ａ）
３６．女は待たぬ（Ａ）
３７．ころがるダイス
３８．レスター・リースの冒険（短）
３９．火中の栗（Ａ）
４０．カラスは数を数えない（Ａ）
４１．傾いたローソク
４２．虫のくつたミンク
４３．嘘から出た死体（Ａ）
４４．そそっかしい子猫
４５．万引き女の靴

（Ａ）印は、Ａ・Ａ・フェア名義